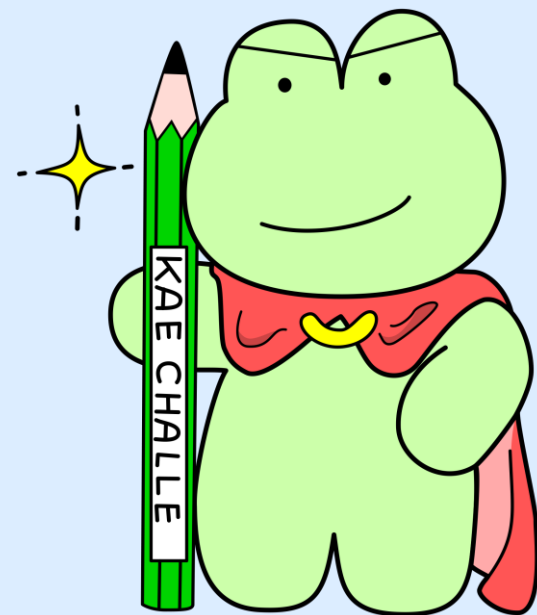


福島市職員 ひとり1改善・1改革運動 「かえるチャレンジ」

令和6年年間賞 受賞一覧





1
年間
かえる大賞



国民健康保険高額療養費の 申請手続きの簡素化について

〈取組内容〉

対象月ごとに申請手続きが必要だったものを、要綱を改正して特例申請があった月以降は指定口座に自動的に振り込むことにした。

あわせて申請管理システムを構築して、あらかじめ申請日・住所・国保番号を印字する書かない窓口とした。

〈効果〉

- ・ 申請する方は窓口に来る必要がなくなった。
- ・ 窓口対応する職員の負担が減った。
- ・ 書類を審査する職員の負担が減った。



マイナンバーカードの電子証明書更新 (有効期限) 通知発送業務の見直し



〈取組内容〉

マイナンバーカードの5年ごとの電子証明書の更新通知を市と地方公共団体情報システム機構（J-LIS）からそれぞれ通知していたが、仕様の見直しに伴って表記文言を修正して、J-LISからの通知に一本化した。

〈効果〉

- ・ 更新対象者に対する一連の作業が削減された。
(対象者チェック、リスト作成、封入封緘、発送など)
- ・ 送付物の印刷費及び郵送費が削減された。



入札参加資格申請の電子受付

〈取組内容〉

登録を希望する業者より郵送で受け付けし、紙保管、職員が手入力していたものを以下のように改善して効率化を図った。

- ・受付方法をオンライン申請に変更した。
- ・各登録情報はExcel、証明書等はPDFによりパソコン上で審査する。
- ・Excelより抽出した業者情報をRPA（sikulix）で財務端末へ自動入力する。

〈効果〉

- ・受付・返信作業が削減し、再提出等の即時確認が可能となった。
- ・紙での保存が不要となり、Excelにより業者売上高の突合作業が削減された。
- ・自動入力によって職員作業時間が削減された。

内製化及びデジタル活用による
子育て応援給付金業務のスマート管理

〈取組内容〉

- ・原則オンライン申請として、受付から支払いまでデータ管理に統一した。
- ・内製システム(Access)を導入し、すべての作業を一元化した。
- ・具体的な申請マニュアルを作成した。

〈効果〉

- ・問い合わせが減少した。(月2～3件 92%削減)
- ・データ一元管理による作業時間が削減された。(年552時間削減)
- ・申請の不備や未申請が削減された。
- ・紙の使用量削減、及び紙による個人情報流出が防止された。
- ・委託料が削減された。



〈取組内容〉

福島市子育てアプリ「えがお」から事前予約できるようにした。

〈効果〉

- ・ 受付前から順番待ちをする必要がなくなった。
- ・ 会場での滞在時間は受け付けした順番に関わらず1時間～1時間30分程度に短縮された。
- ・ 受診するお子さんが事前に分かるため、カルテの準備や、継続してフォローしているお子さんに対して適切に対応できるようになった。
- ・ 健診担当者以外の職員が急に対応することがなくなった。

高齢者が参加しやすい敬老会のため、
会場、内容、タイトルの見直し



〈取組内容〉

会場：小学校体育館から支所・学習センターに変更した。

内容：式典形式からコミュニティサロン形式に変更した。

（交流コーナー、健康測定、相談コーナーなど時間内入退場自由）

〈効果〉

- ・出席率が2.3%、来場者数が25%増加。アンケートの満足度88%
- ・新しい出会いや懐かしい出会いなど来場者同士の交流が創出された。
- ・会場を変更したことで物品運搬や設営の大幅軽減につながった。

発想の転換 ～説明会の業務委託で市職員と 保育施設職員の負担軽減～



〈取組内容〉

保育士の「処遇改善等加算制度」の説明会を市職員が行っていたものを保育業界に特化した会社に業務委託した。

〈効果〉

- ・ 難解な制度だが、分かりやすい説明で市職員と保育施設職員の双方の理解が促進された。
- ・ 保育施設側は書類作成が円滑になり、事務時間が短縮された。
- ・ 市職員は説明会開催と書類審査にかかる時間が短縮された。

県立医大小児病棟へのはしご車
架梯訓練の実施について

〈取組内容〉

福島県立医科大学附属病院小児病棟と連携し、はしご車による放水訓練を実施した。入院する子ども達の目の前にはしご車を伸ばし、メッセージタオルでエールを送った。

その様子を市公式YouTubeで情報発信した。

<https://www.youtube.com/watch?v=SkWYoEUduPc>

〈効果〉

- ・ 経験の浅い若手職員にとって実践的な訓練となり消火技術が磨かれた。
- ・ 闘病で入院が続く子どもたち、保護者、病棟スタッフを笑顔にできた。
- ・ YouTubeに配信することで消防のイメージアップにつながった。

綴らないっ！捨てないっ！
チューブファイルをリユースしたぞ！
～ちっとだけサステナブル～



〈取組内容〉

除染関係文書を電子化し、チューブファイル約9,000個を庁内各所属へ引き渡し、再利用した。

電子化後も除染関係書類（紙）の廃棄ができないため、引き続き保存するが、綴じ直しせず紙のみを箱に収納にし、コンパクトに保存することとした。

〈効果〉

- ・ ファイル購入費用の削減となった。
- ・ 保存場所の縮減となった。